

平成 28 年度第 1 回造血幹細胞移植推進拠点病院セミナー

平成 28 年 10 月 22 日、医学部 6 号館カンファレンス室にて今年度の第 1 回造血幹細胞移植推進拠点病院セミナーを開催しました。

「東北ブロックにおけるドナーコーディネートの最適化をめざして」をテーマに、東北各県から 50 名余りが参加しました。



司会は血液・免疫科の張替秀郎教授



講演 1

日本骨髄バンクにおけるコーディネート期間の現状と課題

坂田 薫代氏（日本骨髄バンク ドナーコーディネート部）



坂田先生は、最初に、バンクの現状についてと、コーディネート期間短縮に向けた「コーディネートフローの見直し」についてお話されました。選定後のドナー理由による終了を減らすため、確認検査時の面談においてチェックシートを導入すること、また、採取施設で提供同意面談という形式により期間短縮を目指す案などを、懸案事項として説明されました。また、病院に HCTC が在籍することで骨髄バンクコーディネーターがより円滑になることや、一方で HCTC が在籍する病院が少ないことを課題として挙げられました。今後、HCTC と骨髄バンクコーディネーターの連携が重要になることにも触れられました。

最後に、ドナーへの感謝の気持ちを手紙やカードで率直に伝えてほしい、それが、ドナーへの大きな励みになるのだというメッセージを送られました。



休みなくメモを取る手・・・。
活発な質疑が繰り広げられました。



講演 2

東北大学病院における術前検査から骨髄採取までの所用日数と課題

上野 秋花氏（東北大学病院 造血細胞移植コーディネーター（HCTC））



当院の上野からは、造血幹細胞移植コーディネーター「HCTC」とは何かということについて詳細に説明し、どんな人が適任なのか、という自分自身の考えを、ユーモアを交えてざっくばらんにお話しさせていただきました。

会場全体が和やかな雰囲気になり、その後も東北大学病院の現状や課題について説明し、参加後のアンケートにも HCTC の仕事内容を知ることが出来て良かったと好評でした。



福田 隆浩氏 (国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科 科長)



福田先生からは、骨髄バンクコーディネートの期間短縮を目指して研究班が取り組んできた実態調査とその結果を1つずつ説明していただきました。コーディネート終了理由の男女別、また年代別の調査結果や、患者・ドナー側から見たコーディネートの実態が具体的に数字に表されていました。それによると、ドナーコーディネートのうち約60%が初期段階で終了となり、そのうち約80%弱がドナー理由とのことでした。今後のコーディネート期間短縮のための試みの1つとして、コーディネート進行率が高いドナーを選択するシステムの開発や、ソーシャルマーケティングによる若年ドナーのリクルートについても述べられ、今後の研究の進捗に期待を馳せての閉幕となりました。



最後に、本セミナー担当の大西康先生司会で、各県の事情・要望等をディスカッション。調整医師との連絡のためにメールでのやりとり、等が要望として挙げられました。

